

2021年度の事業進捗状況評価一覧

※「経営戦略事業（小施策）」は、本編P57・58と同じ内容です。

評価凡例	
A・・・大変良い	（目標を大きく超えて達成できた）
B・・・良い	（目標を達成した）
C・・・やや悪い	（目標を一部達成できなかった）
D・・・悪い	（目標を達成できなかった）
-・・・該当なし	（当初から事業の予定がなかった）

基本方針	目的	経営戦略事業（小施策）	掲載ページ	担当課	目標	2021年度末の目標	2021年度の事業内容	2021年度達成状況	2021年度実績	2021年度評価	2021年度評価理由	備考	
1 環境に配慮した施設整備・より良い環境づくりの推進	(1) 住環境の改善	① 污水管整備事業	3	下水道整備課	水洗化率 100% (2026年度末)	①整備延長 L=2.5km 水洗化率 99.3% ②合併処理浄化槽への切替え基数 20基	①市街化区域、市街化調整区域及び道路関連事業等に伴う污水管整備工事実施 ・污水幹線及び枝線工事 L=2.5km ②事業内容 ・配管費補助の継続 ・維持管理費補助の案内に、単独処理浄化槽への補助金廃止予定を明記し、合併処理浄化槽への転換を促進 ・啓発活動実施	①計画した污水幹線及び枝線整備延長は、道路整備関連事業による用地未取得等により工事に着手できないなど、計画延長よりも実施延長が下回っている。 整備延長 L=1.7km 水洗化率 99.4% ②切り替え済基数 15基 ・配管費補助の継続 ・維持管理費補助の案内に、単独処理浄化槽への補助金廃止予定を明記し、合併処理浄化槽への転換を促進した。 ・設置補助案内送付 計169件 ・啓発活動として、翌年度新たに下水道事業計画区域となる地域を対象とした設置補助案内のポスティングを実施計88件	①整備延長 L=1.7km 水洗化率 99.4% ②合併処理浄化槽への切替え基数 15基	B	目標の水洗化率を達成したため。		
		② 未接続家屋への污水管接続の普及啓発指導	3	下水道整備課	污水管接続件数 10件 (供用開始から3年以上経過している家屋)	・年間を通じて市内全域にある未接続家屋に普及活動を行う。 ・供用開始して間もない家屋に普及活動を行う。	・市内全域にある未接続家屋の普及活動件数 308件 ・供用開始して間もない未接続家屋の普及件数 20件	污水管接続件数 51件 (供用開始から3年以上経過している家屋)	A	目標の污水管接続件数を大幅に上回ったため。			
		③ グリーストラップの適正な維持管理方法の周知	3	下水道管理課	管清掃延長（緊急） 0.52km削減	管清掃延長 4.08km以下	油脂の流出による污水管の閉塞を防ぐために飲食店などを訪問し、グリーストラップの点検、清掃などの適正な維持管理方法を周知していき、油脂を起因とした詰まりによる管清掃延長を減らす。 2021年度は管清掃延長が4.08km以下となるように周知・啓発を行う。	油脂が付着しているエリア周辺66店の飲食店に対して店舗を訪問して、グリーストラップの適正な維持管理方法を周知した。 周知後の点検調査では管清掃が必要な箇所が減ったため改善が見られた。このため、管清掃延長は1.68kmで目標値以内に収まった。	管清掃延長 1.68km	B	目標通り達成したため。	グリーストラップとは、油脂等を下水道へ流入させないための装置。	
	(2) 河川の水質向上への貢献	① 下水処理水の水質向上		4	水再生センター	高効率散気装置 導入率89%	-	2021年度は高効率散気装置の導入予定無し 現状値：28.0%（2020年度末）	-	-	-	-	
				4	下水道管理課		①水路調査延長 35km ②管理図書作成	水路の現況や境界等の基本的な情報を調査し、管理図書の作成を行う。管理図書により、定期的に清掃や草刈を行う場所や計画的に修繕する箇所を選定する。2021年度は堺地区および鶴川地区内水路35kmの調査を予定している。	位置、構造、境界などの水路の基本的な情報を把握するための調査が完了した。 また、調査結果をまとめ、管理図書の作成を行った。 (2022年3月完了報告済)	①水路調査延長 35km ②管理図書作成 完了	B	目標通り達成したため。	
				4	下水道整備課		浄化槽維持管理費補助制度対象者への適切な維持管理の啓発・指導	・浄化槽維持管理費補助制度の利用促進 ・三大義務（保守点検・清掃・法定検査）の未実施者に対する啓発活動実施	・浄化槽維持管理費補助金対象者に申請書等送付 計1,531件 ・維持管理補助申請促進通知 488件 (法定検査実施済みの管理者宛) ・浄化槽維持管理費補助実施 710件 ・法定検査受検促進通知 857件 ・法定検査受検件数 857件 (7条18件 11条839件) ・啓発活動として、下水道事業計画区域及び2022年度に新たに下水道事業計画区域となる地域を除き、2019年以降三大義務（保守点検・清掃・法定検査）のいずれも未実施の者を対象として抽出し、啓発文書を送付 計73件	浄化槽維持管理費補助制度対象者の制度利用率 46.4% (710/1531)	B	補助制度対象者に対し、適切な啓発・指導を行うことができたため。	

2021年度の事業進捗状況評価一覧

※「経営戦略事業（小施策）」は、本編P57・58と同じ内容です。

評価凡例			
A・・・大変良い	(目標を大きく超えて達成できた)	D・・・悪い	(目標を達成できなかった)
B・・・良い	(目標を達成した)	－・・・該当なし	(当初から事業の予定がなかった)
C・・・やや悪い	(目標を一部達成できなかった)		

基本方針	目的	経営戦略事業 (小施策)	掲載ページ	担当課	目標	2021年度末の目標	2021年度の事業内容	2021年度達成状況	2021年度実績	2021年度評価	2021年度評価理由	備考
	(3) 地球温暖化対策と資源の循環利用	① 温室効果ガスの削減	5	水再生センター	第3計画期間 (2024年度末) 5カ年平均25%減	基準排出量より 2020～2024年度 平均で、2.5%削減	効率的な機器の運転等により、エネルギー使用を抑制し、温室効果ガス排出量の削減を図る。 特に成瀬クリーンセンターでは、安定的な高温(850℃)での汚泥焼却炉運転により、削減効果の高い温室効果ガス(N ₂ Oなど)を定期的に削減する。	エネルギー起源CO ₂ の排出量としては、成瀬クリーンセンターで17.2%削減、鶴見川クリーンセンターで16.5%削減した。 さらに、成瀬クリーンセンターでは高温焼却によるN ₂ O削減量をCO ₂ の削減量に換算することができるため、CO ₂ 排出量を合計36.9%削減できた。 2021年度の実績として、両処理場の合計で29.0%の削減を達成した。	基準排出量からの削減率 29.0%	A	効率的な機器の運転等によって、目標削減率25%を達成することができたため。	高温焼却によりN ₂ Oを削減した場合、「N ₂ O削減量(t)×CO ₂ 排出係数÷2」をCO ₂ 削減量として算出することができる。
		② エネルギー・資源の有効利用	5	水再生センター	再資源化率 99.5%	再資源化率 98.5%	下水処理場から発生する全ての産業廃棄物(汚泥焼却灰や沈砂汚泥など)について、建設資材などへの再資源化を実施する。 鶴見川クリーンセンターでは、焼却炉から発生する排ガスのエネルギー(熱・圧力)を活用した「過給式流動燃焼システム」を導入するため、汚泥焼却設備更新工事を行う。(2021年～2025年)	再資源化率は、種類ごとに ・汚泥焼却灰発生量823.2tで100% ・沈砂汚泥発生量122.9tで94.1% ・その他廃棄物発生量27.3tで100% ・総発生量973.4t中966.2tの再資源化を行い総再資源化率は99.2%を達成した。 鶴見川クリーンセンター汚泥焼却設備更新工事について、予定通り進捗した。	再資源化率 99.2%	B	沈砂汚泥の再資源化率は94.1%と低い全体では目標値の98.5%を上回ることができたため。	
2 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築	(1) 浸水対策の推進	① 浸水対策事業	6	下水道整備課	整備箇所数 22箇所	整備箇所数 3箇所	・浸水対策として、雨水管整備工事実施 ①本町田東1号雨水幹線その3工事 ②小山町雨水枝線工事 ③木曾東一丁目雨水枝線工事その3	・計画した雨水管整備工事は予定通り完了 整備箇所数 3箇所	整備箇所数 3箇所	B	目標の整備箇所数を達成したため。	
			6	下水道経営総務課		①境川の早期整備を要望 ②鶴見川の整備状況の確認	・境川について、境川流域総合治水対策協議会に参加し整備状況を確認するとともに、河川管理者に早期整備を要望する。 ・鶴見川について、鶴見川流域水協議会に参加し、整備状況を確認する。	・境川について、境川流域総合治水対策協議会に参加し、整備状況を確認した。 ・境川について、神奈川県厚木土木事務所津久井治水センター、神奈川県藤沢土木事務所及び神奈川県厚木土木事務所東部センターに対し、早期整備を要望した。 ・鶴見川については、鶴見川流域水協議会に参加するなど情報収集し、整備状況を確認した。	①境川の整備状況の確認及び早期整備の要望実施 ②鶴見川の整備状況の確認実施	B	目標通り達成したため。	
			6	下水道管理課		雨水浸透設備設置促進	個人住宅に対して、雨水浸透設備設置について補助金を交付し、雨水浸透設備の整備促進を図り、浸水被害の軽減に寄与する。 2021年度は補助対象項目を増やし、雨水浸透設備設置の促進を図っていく。	個人住宅に対して、当初想定していた8件の補助を行った。 また、さらに利用される制度とするため、2021年度中に要綱を見直し、補助内容の拡充を行った。	補助件数 8件 要綱改正完了 (3月24日)	B	目標通り達成したため。	
			6	下水道部全課		水のう袋を配布し自 助を啓発する	学校教育部と調整し、市立の小中学校に水のう袋を支給して雨水流入の防止に努めるように協力依頼を行う。	市立の小中学校に水のう袋を支給して雨水流入の防止に努めるように協力依頼を行った。 また、自助・共助意識向上を図るため、水のうの作り方を下水道部ホームページにアップした。	水のう袋の配布(自助啓発)を実施	B	目標通り達成したため。	

2021年度の事業進捗状況評価一覧

※「経営戦略事業（小施策）」は、本編P57・58と同じ内容です。

評価凡例			
A・・・大変良い	(目標を大きく超えて達成できた)	D・・・悪い	(目標を達成できなかった)
B・・・良い	(目標を達成した)	－・・・該当なし	(当初から事業の予定がなかった)
C・・・やや悪い	(目標を一部達成できなかった)		

基本方針	目的	経営戦略事業 (小施策)	掲載ページ	担当課	目標	2021年度末の目標	2021年度の事業内容	2021年度達成状況	2021年度実績	2021年度評価	2021年度評価理由	備考	
			6	下水道部全課		豪雨前のパトロールの実施 2回	梅雨入り前、台風シーズン前に水路、下水道施設の点検及び清掃を行い、浸水被害の低減を図る。 2021年度は、2回パトロールを行う。	大雨が予測される前にパトロールを前半期に2回、後半期に1回行い、水路・下水道施設の点検及び清掃を実施し、浸水被害の低減に努めた。	豪雨前のパトロールの実施 3回	B	目標通り達成したため。		
		② 下水道事業継続計画(水害編)の運用管理及び訓練の実施	6	下水道部全課	人命を守る犠牲者ゼロ	訓練実施回数 1回	<ul style="list-style-type: none"> 下水道部では下水道BCP(水害編)を適切に運用する。 町田市総合水防訓練(図上訓練)に合わせて下水道BCP(水害編)に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図るとともに、下水道BCP(水害編)の見直しについて検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 下水道部では下水道BCP(水害編)を適切に運用した。 町田市総合水防訓練(図上訓練)に合わせて下水道BCP(水害編)に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図った。 訓練実施に伴い下水道BCP(水害編)の見直しについて検証した結果、現状と計画に大きな相違がなかったため、見直しの必要はなかった。 	訓練実施回数 2回	B	目標通り達成したため。		
2 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築	(2) 地震対策の推進	① 成瀬クリーンセンターの耐震化	7	水再生センター	耐震化率81.5%	耐震化率64.7% (現状値:64.5%)	<ul style="list-style-type: none"> 耐震補強工事 沈砂池ポンプ棟(2021~2022債務負担行為)、次亜塩素素タンク棟、塩素混和池 耐震設計 沈砂池ポンプ棟、水処理棟(最初沈殿池)、汚泥処理棟 耐震診断 水処理棟(反応タンク、最終沈殿池) 	<ul style="list-style-type: none"> 耐震補強工事 次亜塩素素タンク棟、塩素混和池:耐震補強工事が完成し、目標の耐震化率64.7%を達成した。 沈砂池ポンプ棟:2022年2月に契約し、予定どおり進捗している。 耐震設計:完了 耐震診断:完了 	耐震化率 64.7%	B	次亜塩素素タンク棟、塩素混和池の耐震補強工事が完成し、目標値の耐震化率64.7%を達成したため。 なお、沈砂池ポンプ棟については、2022年度の完成に向けて予定どおり進捗している。		
		② 鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場の耐震化	7	水再生センター	耐震化率 鶴見川CC71.2% 鶴川ポンプ場100%	耐震化率 鶴見川CC21.9% (現状値:21.9%)	<ul style="list-style-type: none"> 耐震診断 鶴見川クリーンセンターの沈砂池管理棟、汚泥処理棟、塩素混和池など 	予定どおり鶴見川クリーンセンター耐震診断が完了した。なお、耐震化率は、現状値の21.9%である。	耐震化率 鶴見川クリーンセンター 21.9%	B	本年度は、耐震化率の変動がないため。なお、予定どおり鶴見川クリーンセンターの耐震診断を実施し、補強を必要とする施設を把握した。	鶴川ポンプ場(ポンプ棟)は、2029年度耐震補強工事完了予定。	
		③ 汚水管の耐震化	8	下水道整備課	汚水管の重要な幹線等の耐震化率100% (2021年度末)	耐震化率 100%	<ul style="list-style-type: none"> 汚水管の重要な幹線等の耐震化完了に向け、液状化が予想される箇所におけるマンホールの耐震化工事実施 	計画した耐震化工事は予定通り完了	耐震化率 100% (目標達成済)	B	目標の耐震化率を達成したため。		
		④ 雨水管の耐震化	8	下水道整備課	雨水管の重要な幹線等の耐震化率100%	耐震診断実施	<ul style="list-style-type: none"> 緊急輸送路などに布設され、かつ、液状化の可能性が高い雨水管の耐震化のため、雨水幹線の耐震診断実施 	計画した雨水幹線及び枝線の耐震診断は予定通り完了	累計耐震診断延長 L=1.1 km	累計耐震診断延長 L=1.1 km	B	目標とした耐震診断が完了したため。	
		⑤ 避難施設へのマンホールトイレの整備	9	下水道整備課	整備済み避難施設数 71施設 (2025年度末)	整備済み避難施設数 49施設	<ul style="list-style-type: none"> 災害時における避難施設のトイレ機能確保のためマンホールトイレ整備工事実施 ①鶴川第三小学校、鶴川第二中学校 ②金井小学校、町田第三中学校 ③山崎小学校、小山田南小学校 	計画したマンホールトイレ整備工事は予定通り完了	<ul style="list-style-type: none"> ①鶴川第三小学校、鶴川第二中学校 ②金井小学校、町田第三中学校 ③山崎小学校、小山田南小学校 計6施設 整備済み避難施設数 49施設	整備済み避難施設数 49施設	B	目標とした6施設へのマンホールトイレ整備が完了したため。	

2021年度の事業進捗状況評価一覧

※「経営戦略事業（小施策）」は、本編P57・58と同じ内容です。

評価凡例			
A・・・大変良い	(目標を大きく超えて達成できた)	D・・・悪い	(目標を達成できなかった)
B・・・良い	(目標を達成した)	－・・・該当なし	(当初から事業の予定がなかった)
C・・・やや悪い	(目標を一部達成できなかった)		

基本方針	目的	経営戦略事業 (小施策)	掲載ページ	担当課	目標	2021年度末の目標	2021年度の事業内容	2021年度達成状況	2021年度実績	2021年度評価	2021年度評価理由	備考
		⑥ 下水道事業継続計画(地震編)の運用管理及び訓練の実施	9	下水道部全課	訓練と見直し実施	訓練実施回数 2回	<ul style="list-style-type: none"> 下水道部では下水道BCP(地震編)を適切に運用する。 下水道BCP(地震編)に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図るとともに、下水道BCP(地震編)の見直しの必要性について検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 下水道部では下水道BCP(地震編)を適切に運用した。 下水道BCP(地震編)に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図った。 訓練実施に伴い下水道BCP(地震編)の見直しについて検証した結果、現状と計画に大きな相違がなかったため、見直しの必要はなかった。 	訓練実施回数 2回	B	目標通り達成したため。	
3 経営の効率化及び健全化・より良い下水道サービスの導入	(1) 効率的・効果的な維持管理の推進	① 状態監視保全の維持管理	10	水再生センター	1) 下水処理施設の 詳細調査件数 100件以上	下水処理施設の 詳細調査件数 15件	成瀬クリーンセンターで最初沈殿池設備の汚泥かき寄せ機など5件、鶴見川クリーンセンターで最初沈殿池設備の汚泥かき寄せ機など7件、鶴川ポンプ場でスクリーンかす設備の自動除塵機など3件、合計15件の下水処理施設の詳細調査を実施する。	成瀬クリーンセンターで最初沈殿池設備の汚泥かき寄せ機など5件、鶴見川クリーンセンターで最初沈殿池設備の汚泥かき寄せ機など7件、鶴川ポンプ場でスクリーンかす設備の自動除塵機など3件、合計15件の下水処理施設の詳細調査を実施した。	下水処理施設の 詳細調査件数 15件	B	目標の詳細調査件数15件を達成したことにより、施設の健全度が判明し、効率的・効果的な維持管理のためのデータ収集ができたため。	
			10	下水道管理課	2) 下水道管の点検・ 調査延長542km	調査延長 54km	「町田市ストックマネジメント計画」の実施方針により点検・調査計画を策定し、その優先順位に基づき、管路施設の異常の有無を把握するために、TVカメラ調査や目視調査などの簡易的な調査を行う。 2021年度は、小川ブロックの管路施設54kmの調査を行う。	予定通り、TVカメラ調査、目視等の調査、評価及び分析を行い、54kmの管路施設について、劣化状況を把握することができた。 (2022年2月完了)	調査延長 54km	B	目標通り達成したため。	
		11	下水道管理課	② 腐食環境下にある 下水道管の点検	点検箇所数294箇所	点検箇所 25箇所	下水道管の腐食が予測される箇所について、法令を遵守し定期的な点検を実施する。 2021年度は、河川部の伏せ越し及び、中心市街地、本町田処理分区を対象に25箇所の点検を行う。	予定通り、現場での25箇所の点検及び点検結果のまとめを行った。点検結果としては腐食による管渠の不具合はなかった。 (2022年3月完了)	点検箇所 25箇所	B	目標通り達成したため。	
	11	下水道部全課	③ 汚水管への浸入水対策	調査地域19地域	調査地域 1地域	雨天時に浸入水の多い地区において、原因究明のため取付管TVカメラ調査、送煙調査、目視調査などによる詳細調査を行い、確認された不良箇所について改善を行っている。 2021年度は、原町一丁目地内の1地域において詳細調査を行い、原因究明と改善計画の策定を行う。	予定通り、降雨時の汚水量や水位等の調査を行った。その調査結果の取りまとめを行い、浸入水が多い地域を絞り込むことができた。 (2022年2月完了)	調査地域 1地域	B	目標通り達成したため。		
	(2) 計画的な改築更新	① 下水処理場・ポンプ場の 改築更新	12	水再生センター	「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新の実施	成瀬クリーンセンター 工事完了件数：3件 繰越事業1件含む	<ul style="list-style-type: none"> 水処理設備工事(ゲート設備) 建設工事(屋根防水他) 電気設備工事(監視制御設備) 	以下の2件の工事が完了した。 成瀬クリーンセンター ・建設工事(屋根防水他) ・電気設備工事(監視制御設備) なお、水処理設備工事(ゲート設備)は、関連する他工事の契約時期に遅れが生じたため2022年度に繰越になった。	成瀬クリーンセンター 工事完了件数：2件	C	工事完了を予定していた3件のうち、1件(水処理設備工事(ゲート設備))が、日本下水道事業団が行う契約手続で入札不調となった工事(沈砂池ポンプ棟耐震補強工事)の契約時期と現場着手の遅延による影響を受け、翌年度への繰越となった。	2020年度繰越事業の建設工事(屋根防水他)は完了済み。
	② 管渠の改築更新	12	下水道整備課	「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新の実施	詳細調査実施 汚水 L=11km 雨水 L=17km	<ul style="list-style-type: none"> 「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新のための下水道管路の詳細調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> 計画した下水道管路の詳細調査は予定通り完了 	詳細調査実施 汚水 L=12km 雨水 L=16km	B	目標とした詳細調査が完了したため。		